

地域イノベーター 養成アカデミー



地域が東京にブレインを持つ時代

遠くにいても、地域のブレインに。

いま、地域は多くの課題を抱えています。

少子高齢化が進み、若者は都会へ。
産業は衰退し、観光にも頼れない…。
それでも、自分はここで生きていく。
そう決めているものの、
なかなか突破口が見つからずいます。

一方東京では、地域で働きたいと思う若者が、
だんだんと増えてきています。
しかし、東京にしながら地域と関わりをつくる
チャンスは、なかなかありません。

両者に通じるのは、
「地域をよくしたい」という想い。
東京と地域、同じ志の人が出会って、
互いの話に耳を傾け、
ともに知恵を絞って考える場が
『地域イノベーター養成アカデミー』です。
ずっと地域に在るからできることと同様に、
ヨソ者だからこそできることがあります。

遠くにいても、地域のブレインに。
地域が東京にブレインを持つ時代が
やってきました。

東京ブレインを育てる短期集中実践プログラム

FW
フィールドワーク

- 10～15地域のなかから1地域を見学、体験
- 地域に暮らす人たちとの交流

+

WS
講義&ワークショップ

- 課題分析についての講義
- 事業計画ワークショップ
- 地域の先輩経営者、メンターのアドバイス

4ヵ月

地域課題の把握から分析、解決アイデアの立案・提案
といった一連の流れを、実践的に学びます。

『地域イノベーター養成アカデミー』は、地域の新たな可能性を把握し、その地域にあった方法で地域活性化を行う「東京ブレイン」の育成・輩出を目的としています。本プログラムは、地域での「フィールドワーク」と東京での「講義&ワークショップ」を組み合わせ、4ヵ月間

の短期集中実践プログラムです。両者を繰り返すことで、地域課題の解決手法や、ビジネスシーズを活かした実行可能なプロジェクト立案の流れを経験できるのが特徴。またアカデミー修了後は、三種類の東京ブレインが生まれ、地域との持続的な関係が育まれています。

- **東京拠点型ブレイン**：東京にしながら、遠隔で地域に関わるカタチ
- **往来型ブレイン**：地域と東京の行ったり来たりを繰り返しながら、地域に関わるカタチ
- **移住型ブレイン**：地域に移住し、直接的に地域に関わるカタチ

東京拠点型ブレイン | 四万十 [高知]



野田真菜さん

コミュニティ運営も担う、東京の情報発信隊！

「地域からの情報発信」は今やどの地域にとっても課題です。このテーマを挙げた四万十に集まったのは、本業でもメディアに携わる4人。地域の良さをどうリアルに伝えていくか？を検討しました。ひとつの解は映像でその魅力を伝えること。四万十の風景や人の暮らしぶりを追った映像をネットで公開します。アカデミー修了後も Facebook「いなかパイプとかい支部」を立ち上げ、東京で見つけた高

知の面白いネタなど情報発信を続けています。参加者のひとり高知への関心が高まり、アンテナショップの商品動向を把握するまでに。前期生と共に年2回「四万十ドリンクス」も開催し、都心でネットワークづくりも。商品開発やモニターツアーなど「都市の知恵を借りたい、人を集めたい」。そんな時にあったらいいなと思う仲間が生まれた、理想的なモデルです。

往来型ブレイン | 田野畑 [岩手]

都会の頼れるチームメンバー

長年同じ場所で関係を築く地元民同士では、言いにくいことも多いもの。時にそれが地域を改善する妨げにもなります。田野畑の課題は景勝地「北山崎」を観光地として盛り上げることでしたが、物足りなさを感じたメンバーは、その改善のため、近くの食堂、民宿、案内所で『チーム北山崎』を結成することを提案しました。売店には地産ものを、食堂のメニューに郷土料理を、といった風にすぐ始め

られる細かい施策をいくつも提言。店の人も熱心に耳を傾けました。これがきっかけで挨拶を交わす程度だった地元の店同士は行き来が増え、メンバーは期間後も現地に赴き交流が続いています。ブレインと言えば大袈裟ですが、都会にいて同じ課題に向かうチームメンバーのようなもの。今や「マップをつくったけど、どう思う？」と何かあれば相談できる、頼れる存在です。



佐竹 憲子さん

移住型ブレイン | 青島 [宮崎]

若い力が地域の活力に

宮崎県は世界でも有数のサーフスポットですが、その事実はあまり知られていません。ここをマリンスポーツや保養地としてもっと活用できないかと行われた今回のプログラム。これを機に、移住を決めた若者がいます。細川浩平さん、26歳。埼玉県で製造業に勤め新しく取り組めることを探していた時期に、このフィールドワークに参加しました。サーフィンが趣味でもあり、海に関連する受け入れ先

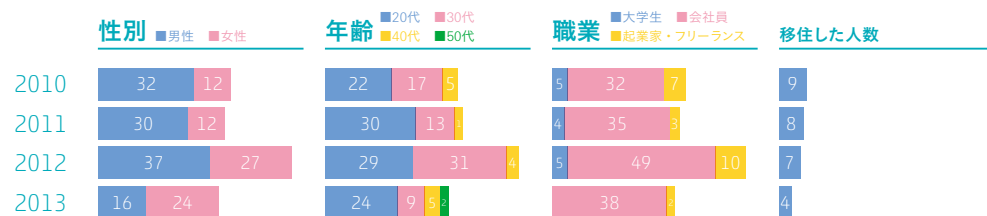
や移住者と話したことがきっかけで、移住を決意。今は宮崎市内のホテルに就職が決まり、働き始めました。地域を何とかしたいという思いが先行していたわけではないものの、若者の力は地域にとって大きな活力。今では受け入れ先の大切な相棒であり、共に民泊のプランも実現しようと計画中。訪れた人に宮崎のことを好きになってほしいと思う程になっています。



細川 浩平さん

参加者とは

20～30代が中心で、地域での転職を考えている社会人、起業家の卵が2～3割程度。社会人として働きながら参加している人が多く、アカデミー修了後、数年経って移住する人が生まれているのが特徴です。さまざまなスキルを持つメンバーが4人チームを組んで、地域課題に取り組んでいきます。



新地【福島】
石井 あかりさん

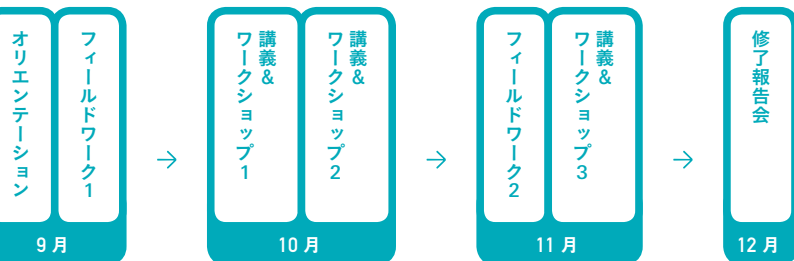
参加者インタビュー

小さなまちだからこそ“自分のまち”に

今回参加して感じたのは、住民同士の顔が見えるまちってすごくいいな、ということでした。新地はわずか7km四方に約8,000人が住む小さなまち。一部津波の被害を受けて、復興計画が進んでいますが、住民同士が直接話せる分、まちづくりに参加している実感を得やすいんです。お話を伺った役場の方たちは復興の仕事に誇りを持っていましたし、まちフェスやビーチクリーンなどの活動も盛んで、驚きました。

私たちは、こうした活動をもっと知ってほしいと、住民による『まちの再発見＆発信』プロジェクトを提案しました。メンバーの2人はこの春から復興支援員として現地入りし、私もこの参加がきっかけで、郡山市でNPOのお手伝いをするようになっていきます。どんな場所であっても、そこには新地のように周囲の人とつながって活動している人たちがいる。そう信じられるようになったのが大きな財産です。

参加の流れ



地域コーディネーターとは

受け入れ先は、NPO法人や地元企業、行政など、地域活動を積極的に行う団体たち。地域コーディネーターは、そうした組織で働きながら地域の課題を把握し、新たな活力を求めている方々です。フィールドワークでは地域の各キーマンとの出会いをセッティングし、参加者が新たなプロジェクトをつくるサポートを果たします。

地域コーディネーターインタビュー

都会の視点で 地元の魅力を見つけるチャンス

都会から来た人たちが、牡鹿の何をいいと思ってくれるのか？それが一番知りたかったことでした。震災直後に石巻に入り、鹿の角を使ったアクセサリや弁当屋などの事業を仕掛けてきましたが、そろそろ3年経ちますし、外に向けた新しいことも始めたいと考えていたんです。私たち自身が、新鮮な目でこの土地を見られなくなっていることもあって、今回の参加者には、都会の視点で新たな牡鹿の魅力を見つけてほしいと考えました。

訪問した先の猟師さんや漁業の方たちの熱い話は、参加者にとっても印象的だったようで「乾いたサラリーマンには響く」と言っていましたね(笑)。結果的に、鹿肉を使ったジビエ料理教室の開催など、すぐにも実現できそうな提案を受けて、私たちの意図にぐっとハマった感じです。

たった数ヶ月で何かができるわけではないし、いただいた案をどう実現していくか、今後一緒に取り組んでいくつもりです。先日は参加者の2人が催事の手伝いに、わざわざ大阪まで駆けつけてくれたんですよ。受け入れる側も参加する側も、それなりの時間と労力をかけてしっかり関係を築くことに、このプログラムの価値があるんじゃないかと思っています。今回、間違いなく、牡鹿の第一のファンを得たと思っています。



牡鹿【宮城】
多田 知弥さん
一般社団法人つむぎや

参加の流れ



全国の地域コーディネーターは、こんな方々です。

北上 [岩手]

菊池 広人さん
NPO法人いわて
NPO-NETサポート

南三陸 [宮城]

阿部 忠義さん
南三陸入谷公民館

新地 [福島]

日下 智子さん
NPO 法人みらいと

女川 [宮城]

小松 洋介さん
女川町復興連絡協議会
戦略室

七尾 [石川]

森山 奈美さん
株式会社御祓川

銚子 [千葉]

小足 雄高さん
銚子市役所

尾鷲 [三重]

伊東 将志さん
尾鷲商工会議所

塩尻 [長野]

安納 五十雄さん
一般財団法人塩尻市振興公社

鹿児島 [鹿児島]

永山 由高さん
一般社団法人
鹿児島天文館
総合研究所 Ten-Lab

アドバイザー

広石 拓司さん

株式会社エンパブリック
代表取締役

船木 成記さん
尼崎市顧問

木村 乃さん

ビズデザイン株式会社
代表取締役



お問い合わせ先

特定非営利活動法人 ETIC. (エティック)

担当：藤田・塚口・長谷川

〒150-0041

東京都渋谷区神南 1-5-7 APPLE OHMI ビル 4F

TEL：03-5784-2115

FAX：03-5784-2116

E-mail：academy@etic.or.jp

WEB：http://academy.etic.or.jp

2014 年 3 月 1 日発行

パンフレット 企画・制作：ASOBOT

アートディレクション&デザイン：一ノ瀬 雄太

インタビュー：甲斐 かおり

イラストレーション：徳永 明子

Supported by



THE NIPPON
FOUNDATION

東京ブレイン 全国MAP

2010年にスタートした「地域イノベーター養成アカデミー」も、4回目。これまで、全国30地域が参加し、参加人数は190人に上りました。
2013年度は、10地域で地域特性を活かしたさまざまなアイデアが生まれ、現在も進行中です。

鹿児島 [鹿児島]

進行中 4人

企業研修をプロボノとして活用

企業の人材育成研修を離島の課題解決に活用しようというプログラム。一般企業の望むリーダー像と地域に必要な人材を重ね、共通項を見出した。都心からのプロボノを安定的に確保し地域を支援してもらう画期的な提案。



南さつま [鹿児島]

4人

青島 [宮崎]

7人

名護 [沖縄]

4人

尾鷲 [三重]

8人

尾鷲檜をまちのシンボルに『尾鷲檜灯道』

檜でつくった灯籠に灯りがともると、中心街は風情あるまちにさがわり。まちのシンボルとして、地場産の「檜」に着目。『尾鷲檜プロダクツ』として、灯籠のほかにも檜を使った生活雑貨などを販売する地域ブランド戦略。



尾鷲 [三重]

8人

買い手である観光客が売り手にも!?

観光で訪れたお客さんと一緒に地産品の商品開発をやってみようという企画「ツクリズム」。魚はさばいてある方がよい、小分けにした方が使いやすいなど、買い手の意見を取り入れつつ、第一のお客さんになってもらえる利点も。



積丹 [北海道]

9人

塩尻 [長野]

8人

子育てしたいまちNo.1を目指そう

自然のなかでじっくり子育てしたい夫婦は多いはず、と考えたのが子どもとのびのび学べる「父子保育留学」。ママが働きパパが子育てをする新しい夫婦像を市が支援することで“子育てしたいまちNo.1”のイメージを目指す。



熱海 [静岡]

11人

八郎潟 [秋田]

2人

新地 [福島]

進行中 4人

住民が地域の魅力を発掘して発信!

小さなまちながら復興計画が比較的進んでおり、まちづくりの活動も盛ん。より多くのプレイヤーや支援者を呼び込むために「町民8000人のわがまち再発見&発信プロジェクト」を提案。住人が自分のまちを取材して情報発信する。



横須賀 [神奈川]

4人

三浦 [神奈川]

5人

銚子 [千葉]

進行中 13人

10年後、戻ってきたいと思えるまちに

子どもたちの郷土愛を育むことを目的にした教育プログラム「銚子人学習」。もともと行われていた「まちづくり学習」をベースに、行政や市民、企業が結束し、小中高とも連携して地域の魅力を継続的に学ぶプログラム。



蒲郡 [愛知]

3人

四万十・宇佐 [高知]

12人

南三陸 [宮城]

進行中 4人

南三陸の文化、暮らしを学ぶツアー

地域の暮らしや民話、風習を学ぶプログラム。特に「きりこ」は紙に祈りを刻み神額にお供える南三陸文化の象徴。住人の思いを刻んだきりこが今も海岸に飾られている。きりこの制作体験や魚さばきの講座も。企業の新人研修や個人ツアーとして活用する。



女川 [宮城]

進行中 4人

観光客と地域のつながりを深めるツアー

何万人何千人の観光客でなく、何度も来てくれる顔の見えるお客さんを増やそうと「つながる観光 in おながわ」を企画。被災後のまちをスペインタイルで彩る活動や漁師と仲良くなるツアーなど、地域との関係づくりを重視。



田野畑 [岩手]

4人

北上 [岩手]

進行中 4人

何も無い場所を万人の“ふるさと”に

産物の桑茶を地域の宝にしようと数年前から戦略が続られてきたものの、ブランド効果が今一歩。そこで桑茶の販売だけでなく農業や里山体験など“ふるさと”を提供する「NEXT 更木ふるさと興社」の立ち上げを提案。



牡鹿 [宮城]

進行中 4人

ジビエ料理の教室を東京で開催

誰でも簡単につくれる牡鹿肉のジビエ料理や牡蠣殻を肥料にした稲作など、土地のものを活用する案が数多く出された。ジビエ料理教室は、東京での開催と牡鹿との交流ツアーなど、協力者も見えており実現性が高いものに。



九十九里 [千葉]

4人

鋸南 [千葉]

4人

全国のコーディネーターが強力なネットワークに!

地域コーディネーターは、理解者が少なければ、孤独で難しい役割です。全国の同じ立場のコーディネーター同士がつながることで理解者が増え、協力し合える関係に発展することも。距離を超えて、さまざまなコラボレーションが生まれています。